

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成25年度)

2014年 3月 24日

港区長 殿

郵便番号 110-0016

所在地 東京都台東区台東3-2-5大林ビル2F

有限会社 エテルノ

評価機関名

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

代表者氏名 山崎 剛志

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者養成講習修了者番号・担当分野	修了者番号		担当分野
	①	H0601040	経営
	②	H0601067	福祉
	③	H0202027	経営
	④		
	⑤		
福祉サービス種別	港区緊急暫定保育施設		
調査対象事業所名称	港区札の辻保育室		
事業所連絡先	郵便番号	108-0014	
	所在地	東京都港区芝5-36-4	
	電話番号	03-5232-1130	
事業所代表者氏名	福富 里美		
契約日	2013年 8月 8日		
利用者調査票配付日(実施日)	2013年 12月 6日		
利用者調査結果報告日	2014年 1月 17日		
自己評価の調査票配付日	2013年 9月 4日		
自己評価結果報告日	2014年 1月 17日		
訪問調査日	2014年 1月 24日		
結果合議日	2014年 3月 10日		
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	保育園の協力のもと利用者調査用紙を保護者(園児)へ配布して頂いた。回収については、保育園の協力のもと保護者から回収をして頂き、まとめて評価機関宛てに郵送して頂いた。第三者を確保するために、無記名での回収をする趣旨を利用者調査ご協力のお願い文などを別紙に作成し配布した。		

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む調査結果報告書を受け取りました。

2014年 3月 20日

事業者代表者氏名 港区札の辻保育室 園長 福富 里美

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【保育理念】 「あったかい心」をもつ子どもに育てる 「あったかい心」とは…愛情～信頼～認め合い～思いやりの気持ち、その気持ちのこもった行動が素直に表現できることです。</p> <p>【基本方針】 ●「思いやり」の気持ちを大切にします。●「生きる力」を大切にします。●「好奇心」が伸びる環境を大切にします。●「経験」「体験」を大切にします。●一人ひとりの「得意」を大切にします。●「ことば」の美しさ、楽しさを大切にします。●「地域との関わり」を大切にします。</p> <p>【保育目標】 ①「こころ」認め合う子ども チャレンジする子ども ②「あたま」興味を表現する子ども 発見を大切に子ども ③「からだ」楽しくよく食べる子ども からだ中であそぶ子ども</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>①保育に自分のロマンを持ち、専門職として知識、技術、判断力を日々高められる人材。 ②職員一人一人が園運営の担い手であるという自覚と責任を持ち、創意工夫を生かした園作りに積極的に取り組む人材。 ③心身ともに健康な人材。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>①職種に関らず、一人ひとりの子どもを愛し、自分が子どもを見守っている責任感を持つ。 ②それぞれの職種のプロフェッショナルとしての認識と役割を持ち、常に向上を目指す。 ③チームの一員として協調性をもって職務に取り組む。</p>

調査対象	保育園に通っている園児の世帯に対して調査を行なった。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。
調査方法	アンケート調査は無記名方式とし、保育園を通じて保護者へ配布しました。 アンケート用紙の回収方法は、園に設置した回収箱による回収または、返信用封筒による評価機関へ直接郵送する方式としました。
利用者総数	126
共通評価項目による調査対象者数	126
共通評価項目による調査の有効回答者数	71
利用者総数に対する回答者割合(%)	56.3

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」15.5%、「満足」52.1%の計67.6%である。
 自由意見では、「子どもに対して、年齢相応に適切に対応していただいていると感じています」「先生はいつも一生懸命対応してくださり、感謝しています」「先生の対応や言葉遣い、話し方や人の話しを聞く姿勢など、すべて満足しています」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。
 向上・検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点などから、それぞれに声が寄せられている。
 設問別では、「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「行事日程」「職員の丁寧な対応」などの15問中5問が80%以上の支持を得ており、50%台を下回ったのは「第三者委員への相談」の1問である。それ以外の設問は50%前半～70%後半の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	64	6	1	0
「はい」の回答は90.1%、「どちらともいえない」の回答は8.5%、「いいえ」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「何を食べて何を残したかなども、聞けたら嬉しいです」「今の年齢・月齢での食事形態や食事量のアドバイス・食についての相談などを受けてほしいです」「少し量が少ない気がする」という意見が寄せられていた。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	58	8	5	0
「はい」の回答は81.7%、「どちらともいえない」の回答は11.3%、「いいえ」の回答は7.0%であった。 自由意見では、「お散歩に行かない日がたまにありますが、行ける日はいつも行ってほしいです」「もう少し、近くの公園などに出かけてもいいと思います」という意見が寄せられていた。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	62	6	1	2
「はい」の回答は87.3%、「どちらともいえない」の回答は8.5%、「いいえ」の回答は1.4%、「無回答・非該当」の回答は2.8%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	55	9	6	1
「はい」の回答は77.5%、「どちらともいえない」の回答は12.7%、「いいえ」の回答は8.5%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「発熱したら、まず状態だけでも連絡がほしいです お迎えの時に言われても、受診できない時間なので困る」「保健室へ行ったことを子どもから聞いて分かることもあるが、たいしたことでもなくても知らせてほしい」という意見が寄せられていた。				
5. 安全対策が十分取られていると思うか	42	19	10	0
「はい」の回答は59.2%、「どちらともいえない」の回答は26.8%、「いいえ」の回答は14.1%であった。 自由意見では、「地震などの際の、保護者の行動マニュアルなどの配布がほしいです」「人通りが多い大通りに面しているためセキュリティが大事だと思うが、門は誰でも自由に開閉可能」という意見が寄せられていた。				
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	57	8	6	0
「はい」の回答は80.3%、「どちらともいえない」の回答は11.3%、「いいえ」の回答は8.5%であった。 自由意見では、「親子参加の行事が、もう少しあってもよいと思います」「日程の連絡が遅いので、早ければ調整ができる」という意見が寄せられていた。				
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	53	8	10	0
「はい」の回答は74.6%、「どちらともいえない」の回答は11.3%、「いいえ」の回答は14.1%であった。 自由意見では、「延長保育の場合は、先生が違うのでむずかしい」「話せる先生と話せない先生がいる」「連絡帳で毎日やりとりできると、もっと良いです 何かあった時だけなので」「クラスによって、また先生によってお迎え時に話してくれる量の差が大きい やはり1日のことを話してくれるのは嬉しいので、たくさん話してほしい」という意見が寄せられていた。				
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	53	10	8	0
「はい」の回答は74.6%、「どちらともいえない」の回答は14.1%、「いいえ」の回答は11.3%であった。 自由意見では、「個別の面談などの機会をつくってくれているので良いと思う」という声が寄せられている一方、「職員によって聞く姿勢が違う」「担任の先生になかなか会えない」という意見が寄せられていた。				
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	46	13	8	4
「はい」の回答は64.8%、「どちらともいえない」の回答は18.3%、「いいえ」の回答は11.3%、「無回答・非該当」の回答は5.6%であった。 自由意見は、1件も寄せられていなかった。				
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	56	11	2	2
「はい」の回答は78.9%、「どちらともいえない」の回答は15.5%、「いいえ」の回答は2.8%、「無回答・非該当」の回答は2.8%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

11. 職員の対応は丁寧か	58	7	5	1
「はい」の回答は81.7%、「どちらともいえない」の回答は9.9%、「いいえ」の回答は7.0%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。自由意見では、「保護者への挨拶が、職員によってばらばら」「言葉遣いが丁寧でない職員もいて、嫌な思いをすることがある」という意見が寄せられていた。				
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	39	17	13	2
「はい」の回答は54.9%、「どちらともいえない」の回答は23.9%、「いいえ」の回答は18.3%、「無回答・非該当」の回答は2.8%であった。自由意見では、「保育士や園長と信頼関係にない保護者は、言いづらいと思います」「ご意見箱の設置も周知がなく、知らない保護者も多いようです」という意見が寄せられていた。				
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	40	18	10	3
「はい」の回答は56.3%、「どちらともいえない」の回答は25.4%、「いいえ」の回答は14.1%、「無回答・非該当」の回答は4.2%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	23	12	32	4
「はい」の回答は32.4%、「どちらともいえない」の回答は16.9%、「いいえ」の回答は45.1%、「無回答・非該当」の回答は5.6%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	28	5	4	0
この質問は、回答者を限定したものです。過去1年以内に利用開始し、かつ利用開始前に説明を受けたと回答した家庭が37世帯あり、その中で、「はい」の回答は75.7%、「どちらともいえない」の回答は13.5%、「いいえ」の回答は10.8%であった。自由意見では、「事前に準備するもののリストを渡されましたが、実際に必要なものと異なることがあった」「分かりにくいところがあった(持ち物・延長保育の利用の仕方など)」「入園後、周囲の保護者から聞いて知ったことも多いです」という意見が寄せられていた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
	9/9	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	
	評点(0000)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
○非該当		
●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	
○非該当		
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	
○非該当		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(00)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	
○非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
○非該当		

カテゴリー1の講評

園の理念や方針は、職員や保護者、利用希望者に向けて周知されている

保育園の理念や運営方針、基本方針、保育目標などは、区の入園案内やホームページ、パンフレットなどに掲載して幅広く周知されている。

職員への当園の理念や目標の周知については、入社前研修や保育課程、「施設運営業務マニュアル」などで、確認されている。保護者や入園希望者には、入園のしおりやパンフレットなどを使って入園説明会や保護者会などの場や見学時に説明されており、園内掲示や園だよりでも伝えられている。

経営層としての役割や責任の職員周知は、綿密な仕組みのもとに行なわれている

経営層の役割や責任、園の体制などは、職務分担表や「施設運営業務マニュアル」などに明記されており、新年度の職員会議の際には、組織としての年間目標や方針を説明されている。

経営層は園内外での日常の業務の推進に加え、職員面談や保護者面談（個人面談）も行ないながらリーダーとしての役割を果たしており、自己査定や自己評価の際にも役割や責任の確認を行なっている。

園運営にかかわる重要事項は、手順を明らかにして検討し、決定されている

組織全体の構造は「保育園業務マニュアル(園長用・職員用)」に示されている。また、園運営に関する重要事項に関しては、法人の諸規程に沿ったルールのもとに意思決定が行なわれている。

当園の保育運営に関する重要な案件は、法人の園長会や園の職員会議で話し合っ決定している。

職員はいずれかの会議で必ず意思決定に関わっており、経緯を含めた内容は申し送りノートで全職員へ周知されている。

保護者には、園だよりやクラス懇談会、お知らせなどの書面の配布などにより、逐一伝えられている。

2			カテゴリー2	
2			サブカテゴリー1(2-1)	
経営における社会的責任			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			4/4	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している		<input type="radio"/> 非該当	
2			サブカテゴリー2(2-2)	
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
			7/7	
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		<input type="radio"/> 非該当	

カテゴリー2の講評

区や法人の規則に沿った、法や規範、倫理などのコンプライアンスの仕組みが整っている

コンプライアンス(法令遵守)の面では、法人と区のマニュアルなどに保育園職員としての姿勢が明示されており、職員は入社前研修時に姿勢や心得、服務、守秘義務の遵守、情報開示などを学習している。マニュアルを職員全員に配布して透明性を高めている。地域に対しては、福祉サービス第三者評価を実施して結果を公表し透明性を高めており、区の支所にも各種の案内を置いている。

港区緊急暫定保育施設というなか、少しずつではあるが地域支援活動が行なわれている

地域連携の面では、行政の支部会議や関係施設園長会のほか、児童支援の関係機関との会議も開催して連携を図っている。保育の専門性を地域に還元する取り組みの面で、当施設は「港区緊急暫定保育施設(以下、「暫定保育室」とする。)」として運営されている関係から地域活動には制限がある。しかし、その環境下でも、育児相談などを実施しており、地域貢献を果たしている。さらに、系列園との交流企画が検討されている。

「暫定保育室」という環境下にあるが、ボランティア活動が進められている

地域と連携したボランティア事業についての受け入れマニュアルが策定されており、実施体制を整えている。「暫定保育室」という性格から、公的なボランティアの要請は見られないが、地域のおはなしの会の来園のほか、造形ワークショップのグループや腹話術のボランティアなどによる夕涼み会でのイベント、地域の外国の方のボランティア活動などが実施されていて、地域とのきずなが広まりつつある。ボランティアの受け入れに関しては、施設運営条件の範囲内で保護者や地域と連携した活動の継続に期待したい。

3			カテゴリー3	
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用			サブカテゴリー1(3-1)	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)			8/8 評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している		○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○非該当	
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している		○非該当	
カテゴリー3の講評				
<p>利用者の意向を把握する仕組みを整えているが、周知には一層の取り組みも期待したい 園と保護者の信頼関係を高めて、利用者本位のサービスを提供するために、利用者の意向(意見・要望・苦情)を把握し解決することに努めており、入園前に「重要事項説明書」で仕組みを説明している。また、意見箱を設置して意向の把握に努めている。利用者アンケートでは苦情解決第三者委員の存在について、「はい(知っている)」の回答は32%に過ぎなかったため、保護者の周知が進むよう一層の取り組み推進に期待したい。</p> <p>保護者の意向を保育サービスの向上に活かしているが、満足度の向上の工夫が望まれる サービスの質の向上に向けた取り組みの一環として、利用者の意向を集約して分析するために、行事後にアンケートを実施して意見を募っている。また、個人面談も随時行っており、利用者から見たサービスの現状と問題を把握や分析し、その結果を公表している。利用者の意向を受けてサービス向上に繋げた例として、保育参観時に保護者が変装して子ども達とふれあえる取り組みが行なわれている。本アンケートでの保護者満足度を見ると、取り組みの一層の充実が望まれる。</p> <p>様々な情報収集活動が行なわれており、区や法人の力も借りて地域の特性を把握している 福祉事業全体の社会動向や地域の福祉ニーズの収集などについては、区や各関係機関からの情報や法人の研究資料などを回覧して誰でも見られるようにしている。また、様々な情報をファイリングして、必要な時には、職員の誰でもが活用できるようにしている。当園は「暫定保育室」ではあるが、地域からの期待の大きい施設であるので、福祉ニーズについては園独自の収集や分析の面での一層の充実を期待したい。</p>				

カテゴリ4			
4	計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1(4-1)			
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している			
評点(000)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している			
評点(0000)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている		○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している		○非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			
評点(0000)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んで いる		○非該当

サブカテゴリ-2(4-2)

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **4/4**

評価項目1
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当

カテゴリ4の講評

「暫定保育室」としての様々な課題をとらえ、綿密な計画を策定して事業を推進している
 港区の保育園の中・長期計画は行政による地区単位の総合計画や保育計画が策定されていて、当園は「暫定保育室」として位置づけられている。また、法人でも中・長期計画を策定しており、視点を明確にした運営が進められている。年度単位では年間保育計画に加え、食育や避難訓練、保健、行事などの各セクションで平成24年度の反省のもと、平成25年度計画を策定している。短期では、月案や週案、デイリープログラムなどが作成され、保育に展開されている。

流動的な保育運営環境にあるが、現場主体の事業が計画的に進められている
 事業の実践の面ではサービスの現状を把握するために、アンケートなどから保護者の意見を聞き、前年度の反省をもとに職員の業務負担や子ども、保護者への影響を考慮しながら、無理のないように進められている。計画の進行状況を点検するために稟議書など作成して行事などの取り組みに対応している。また、保育の面では各クラスごとに月および期ごとに反省しながら、指導計画の見直しも行なっている。

防犯や危機管理の園内研修を通じ、安心・安全面での綿密な取り組みが実践されている
 平成25年度に本新園舎に移動してきたことを踏まえ、区や法人の指導のもと、防災や防犯については、綿密な避難訓練計画やマニュアルなどを整備し、消防訓練や避難訓練を実施している。子どもの安全管理に向けて、職員が業務の内容や場面に応じて確認すべき事項をマニュアル類に定めており、施設内外の点検についてチェックリストを用いながら行なっている。危険項目や内容、防止策などをまとめて職員間で共有することにより、事故防止に力を入れて取り組んでいる。

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			8/8	
評価項目1			事業所にとって必要な人材構成にしている	
			評点(000)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2			職員の質の向上に取り組んでいる	
			評点(00000)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している		<input type="radio"/> 非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			7/7	
評価項目1			職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	
			評点(000)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

園の人材構成は法人の主導で進められており、園内人事も適切に行なわれている

園の人材確保や育成は法人の人材育成方針にもとづいて統括運営されており、人事制度に関する方針の策定や規程の作成、人材採用、人員配置、職員教育、福利厚生などが一括して行なわれている。また、法人の職員面談システムをもとに、職員の公平公正な評価が行なわれている。

園の各職員には面談の前に「園を良くする工夫」「理想の保育園とは」「改善すべき点」をシートに記入してもらい、園長と法人職員による職員への面談により、一人ひとりの希望や年度目標への取り組み姿勢を把握している。

職員資質の向上のための研修目標の設定と個人別育成の充実した計画システムがある

職員の資質向上のために、法人の充実した研修受講のシステムが整っており、専門職として求められる具体的な技術の向上に向けた年間研修計画にもとづき、職員研修を実施している。育成計画については、法人作成の「個人能力向上シート」に自身の振り返りや自己評価を記入し、園長や主任との面談の際に育成コメントが発信される秀逸な育成システムとなっている。

研修参加者は、研修後に研修報告書を提出して知識の共有を図っており、優秀な報告は法人内の各園にも公表されている。

法人の福利厚生策が実施されており、園長は日頃から職員のやる気向上を引き出している

職員の意欲向上策として、法人のシステムに沿ったマネジメントが行なわれている。また、人事考課や健康診断、研修受講、相談システム、職員向け法人ニュース、福利厚生などの体制が整っている。

各職員の持っている能力を最大限に発揮できる環境として、園長は職員会議の場で職員が自由に意見を出し合える職場風土が育っていることをあげており、法人職員としての自覚が職員のやる気向上に繋がっていると考えている。

7			カテゴリ-7	
情報の保護・共有				
サブカテゴリ-1(7-1)				
情報の保護・共有に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる			評点(000)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している			<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している			評点(0000)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている			<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-7の講評				
<p>情報の保護と共有は、法人のシステムに沿って適確に行なわれている</p> <p>情報の保護と共有に向けた取り組みは、区や法人の指導により運営されており、園で収集した情報はその重要性や機密性に応じて、アクセス権限やUSBなどの情報媒体の禁止などが設定されている。また、施錠などの安全管理や規程にもとづく文書管理が徹底されている。園にはPC(パソコン)があり、役職用とフリーに分けて活用されていて、パスワードが設定されている。</p> <p>個人情報保護の充実した仕組みが整い、周知徹底に向けた取り組みが進んでいる</p> <p>個人情報保護法への対応面について園で扱っている個人情報は、「港区個人情報保護条例」と法人の方針のもと、ホームページに基本姿勢が掲載されている。また、保護者への利用目的や規程の概要、開示請求の説明も入園説明時にわかりやすく行なわれていて、運用への承諾書も得ているなど、適正な管理や運用がなされている。</p> <p>職員は研修で情報の保護の重要性を確認している。また、実習生やボランティアにも、個人情報保護について説明している。</p>				

カテゴリー8

8 カテゴリー1～7に関する活動成果

サブカテゴリー1(8-1)

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

法人の協力のもと、各カテゴリーの様々な面で成果を上げている

- ・職員へのサポート強化の面から法人で「すっきり相談室」の取り組みを始めており、利用もあって成果を上げている。
- ・園長の発案で保育を考えるための読書勉強会を実施した。
- ・園内研修として、記録の取り方の研修(保育士のための書き方講座)を実施し、成果を上げている。
- ・ボランティアとして「お話ポケット」と腹話術の方が来園し、子ども達とふれあいを持っている。

サブカテゴリー2(8-2)

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

経営層も含む法人研修を実施しており、能力向上の面で成果を上げている

- ・法人による「園長のグループプロジェクト『気になるお子さまへの対応』」が始められた。そのほか、平成24年度に看護師や栄養士、リーダー保育士向けの研究プロジェクトも実施されており、職員と組織の能力向上の面で成果を上げている。

サブカテゴリー3(8-3)

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

情報共有の面で個人情報の取り扱いの説明を充実させ、成果を上げている

- ・個人情報保護の説明の充実のために、新たに3つのシートを作成し、保護者説明を充実させている。また、テレビ局の取材が入った際には、保護者から同意書を得た。
- ・子どもの健全な環境維持のために、虐待防止の園内研修を実施した。

サブカテゴリ-4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

適正かつ計画的な財政運営が図られており、成果を上げている

・予算の執行に関しては毎月の経営層による予算管理のもと、支出の無駄遣いを防止しながら運用を進めており、適切な対応が図られている。また、適正な運営を推進するための法人のチェックが機能していて、法人本部の適格な管理と指導を得て、適正かつ計画的な予算管理と執行が行なわれている。

サブカテゴリ-5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している
・カテゴリ-3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

保護者の希望を受けて保育参観システムを改善し、成果を上げている

・サービスの向上の面で、保護者の意向を受け、保育参観のシステムの改善を図り、好評を得た。(変装して保育に直接参加する仕組み)

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(0000)</p>		
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
	サブカテゴリ1の講評		
	園の情報は区のホームページ及びパンフレットから入手できる 入園または見学を希望する利用者への情報は、区のホームページや各支所の窓口から入手できる。 見学及び来園者には園のしおりから抜粋したパンフレットを配布している。希望があれば献立表も渡している。 0歳児の保護者には、「離乳食対応book」を配布している。		
	区のホームページやパンフレットは写真の貼付やカラーで作成している 利用希望者や来園者に向けた情報(区のホームページ)には、園の所在地や園の概要、目標、事業内容などが記されている。区の保育園 入園の案内は、英語でも作成しており、外国籍の方にも対応できる準備が整っている。 提供する情報(パンフレット)の表記や内容をわかりやすいものにするために、図などを用いて作成している。		
	見学者へパンフレットをもとに園舎の特徴や運営理念について丁寧に説明している 見学の問い合わせについては、希望日時を確認し、園長の勤務調整をしてから受け入れている。可能であれば、子どもが午前中に活動し ている時間をすすめている。 見学者の対応は主に園長が行ない、パンフレットをもとに理念や方針、特徴、保育内容について丁寧に説明している。園舎を回りながら育 児相談にも応じている。		
	サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(000)</p>		
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2の講評		
<p> 入園説明会で園の理念や保育内容について丁寧に説明している 入園内定後、区から児童票などの書類が送付されるとともに、個人面談の日程を知らせ、書類の記入を依頼している。面接は園長と担任が行ない、法人の運営理念や基本ルールについて説明するとともに、園のしおりをもとに保育の特徴や提供している事業などについて丁寧に説明している。また、書類の確認と子どもの生活状況などを詳しく聞き取り、「面談チェック表」に記録した後、児童票に添付している。サービス内容について、保護者の同意を得る点については、不明な点がないことを口頭で確認するようにしている。 </p> <p> 入園後には毎日の声掛けを大切にし、安心して保育園に通えるように配慮している 入園直後の子どもの不安やストレスが軽減されるように、保護者の要望に合わせて慣らし保育を実施している。家庭での生活リズムなどをもとに無理なく園生活に慣れていけるように、家庭での子どもの様子や園での様子をお互いに把握して保育を進めている。1日でも早く安心して頂けるように、送迎時の声かけを心がけている。また、冷凍母乳を預かることで、子どもへのストレスを軽減させている。退園や卒園時には、行事(夏まつり、運動会)の案内を送付している。 </p>		
サブカテゴリ3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリー3の講評

法人の保育理念・基本方針・保育目標にもとづいた指導計画を作成している

法人の保育理念や基本方針、保育目標に沿った保育課程をもとに、年間指導計画を作成している。具体的な保育活動については月案や週案の中で表現している。養護は生命の保持に努めることと、教育は好奇心で自らやってみたくなる内容を考慮して作成している。保護者の意見や要望は、毎日のコミュニケーションや連絡ノートから把握し、翌月の目標や具体的な支援などに活かしている。子どもの様子は日誌に記録し、定期的に子どもの成長や発達の経過、配慮事項などを児童票に記入している。

子どもや保護者の情報(ケガ・家庭状況)などは、昼礼で報告し共有している

計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用するために、児童票はいつでも閲覧できるように決められた場所に保管している。毎日の昼礼や月1回の職員会議で情報共有をしている。アルバイト職員には正規の職員から伝えている。子どもや保護者の状況に変化があった時には、昼礼の中で子どもや保護者の状況(ケガ・家庭状況)などについて報告している。区の巡回カウンセリングの利用や子どもや保護者の情報を他クラスに丁寧に伝え、担任だけでなく、担任以外の職員にも伝えている。

個々の子どもの成長のめやすを保護者一人ひとりにわかりやすく伝える工夫に期待したい

保育計画は全園児に対して毎月一人ひとりの状態に応じて作成し、発達支援児についても同様に作成している。クラス全体の目標については、懇談会などで伝えている。個別目標は、5月の個人面談後に連絡ノートなどを活用して伝えている。個別の月案は全園児に対して作成しているため、子どもの発達や成長を共に確認しながら子育ての視点を一人ひとりと共有するために、個別の成長のめやすを保護者一人ひとりにわかりやすく伝える工夫の検討に期待したい。

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>着替えなどの羞恥心に配慮した支援をするために、衝立てやタオルなどを活用している 個人情報の管理や使用目的については、園のしおりに記載して保護者へ周知している。また、個人情報の考え方を明示して、保護者から同意の確認(サイン)などを得ている。 子どもの羞恥心に配慮した支援としては、衣服の着脱やオムツ替えの際に衝立てをたてている。夏のプールは男女別に着替えるようにし、全裸にならないように巻きタオルを用いた着替え方を指導している。</p> <p>「保育園業務マニュアル」をもとに人権に配慮した保育が行なわれている 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重し、成長を促すために、保育課程をもとに作成された年間指導計画に沿って保育が行なわれている。「施設運営業務マニュアル」の中に人権に配慮した保育として、児童憲章や登園から降園までの言葉がけや接し方が記されており、常に閲覧できるようにしている。 職員が相互に日常の言動を振り返り、職員が相互に日常の言動が無いようにするために、常に職員同士で確認し合うとともに、定期的な園長がクラスを回り、気になる言動についてはその場で注意を促している。</p> <p>園長からの情報提供により職員は虐待防止などについて理解を深めている 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、理解を深めるために、会議で情報提供を行ない職員の認識を高めている。すべての職員が理解できるように園長が個別に対応し、具体的な対応策も全職員に周知している。 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、園長に報告し、子ども家庭支援センターに連絡することになっている。</p>		

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

11/11

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(00000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ6の講評

業務のレベルアップ(標準化)への様々な取り組みが積極的に進められている

業務のレベルアップ(標準化)のために法人作成の総合的な「保育園業務マニュアル」が園長用および職員用に作成されており、各種の部門別マニュアルやチェックリスト類も法人で検討して作成されている。園内では必要に応じて様々な資料の読み合わせが行なわれており、周知が必要な場合は会議やノートなどを使って周知の徹底を図っている。さらに、法人による内部監査も実施されている。

業務の振り返りを含め、業務水準確保の取り組みは日常的に行なわれている

園内での業務水準の見直しの取り組みについては、上記のシステムに沿って行なわれている。マニュアルやチェックリストなどは、法人園長会などで毎年検証されている。また、現場からの声を反映させながら、毎年度末に改訂や新規作成を行なって、最新版を事務所に配置している。平成24年度の反省をもとに、職員が気付いたところやルール改善を行っており、独自には、平成25年度に「施設日常点検表」を作成して現場で活用している。夏期には法人からサポートが入る仕組みもある。

保育サービスの提供面で、指導や助言、相談が日々行なわれている

業務の一定水準を確保して行くために、クラスや会議で報告し検証を行なっている。また、指導計画や業務の手順などを話し合い、業務推進に漏れのないよう努めている。職員全体が情報の共有やサービスのレベルアップ(標準化)に努めており、日常的な管理業務に関しては職員がチェックリストなどをもとに点検し経営層が確認している。指導や助言の面では、園長が日頃から日誌のコメントチェックなどを行っており、職員面談の場でもシートも使って行なっている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		34 / 34	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
評価項目1の講評			
<p>室内の環境構成について考慮し、子どもが自由に遊べるコーナーや廃材を用意している</p> <p>子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などの全体的な姿を把握するために、入園時の個人面談や送迎時の会話などから把握している。把握した情報は連絡帳や保育日誌、個人記録、児童票などに記載している。</p> <p>3～5歳児が主体的に遊びができるように、子どもの動線を考慮しながら遊びと生活のスペースを分けたコーナーを設定している。また、絵本や手作りおもちゃなど、発達に合わせてコーナーを設定している。3～5歳児の廊下の一角に素材(牛乳パック)などを用意しておくことで、子どもは自由に製作を楽しんでいる。</p> <p>外国人ボランティアの協力を得て、異文化に触れる機会を設けている</p> <p>子ども同士が年齢の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つような取り組みとして、外国人ボランティアの協力を得てハロウィンパーティを企画し、仮装をして外国の絵本や人形劇を見せてくれている。運動会前には、他国の国旗に親しんでいる。楽しみながら英語に親しみ異文化に触れる機会を設けている。異年齢(3～5歳児)で楽しむ活動として、夕涼み会や運動会などがある。また、夏の日を通して異年齢で過ごす機会のほか、朝・夕保育の自由遊びでも、子どもたちは自然に行き来している。</p> <p>子どもの特性や状況にあった支援や対応方法を考慮している</p> <p>特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、区の巡回指導員の助言を受け、援助や配慮について指導計画を立てながら、支援を行っている。子どもの要求を見極め、職員が適切な対応をするように心掛けている。保護者と個別による連携を図るために、担当職員を配置している。</p> <p>子どもの年齢や発達過程で生じるトラブルに関しては、子どもの気持ちを汲み取りながら、時には代弁して対応するようにしている。トラブルを未然に防ぐために、状況と原因を究明し子どもの現状を捉え、保育士の対応と環境を見直している。</p>			
2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
◎あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている		○非該当
◎あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
◎あり ○なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当

評価項目2の講評

子どもの要求を汲み取りながら生活習慣を身につくように支援している

発達の状態に応じ、基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくようにするために、子ども一人ひとりの成長発達を職員が見極め、子どもの要求(やる気)を汲み取りながら、適切な時期に支援を行なっている。保護者へは、送迎時による口頭説明以外に、クラスノートや保育参観の機会などを活用して説明するようにしている。
個々の生活リズム(睡眠リズム)に合わせて、眠れない子については静かに遊ぶなど、子どもの体調や状況にあった睡眠時間の調整をしている。

家庭や日常の子どもの様子は、「申し送りノート」を活用して確実に引き継いでいる

登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認するために、視診とともに連絡帳や会話から健康状態や子どもの様子などを、保護者に確認している。確認した情報は、「申し送りノート」に記入している。
降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えるために、日常の子どもの様子を担任より当番保育士へ引き継ぎ、子どもの楽しいエピソードを添えて保護者へ伝えるようにしている。3~5歳児は、クラスの全体的な様子をクラスノートに記入し、イラストなどを交えてイメージが伝わるようにしている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当

評価項目3の講評

法人の理念や基本方針、保育目標をもとに子どもの現状にあった支援をしている

日常の保育の内容を保育目標に反映してするために、法人の理念「あったかい心をもつ子どもに育てる」や基本方針、保育目標をもとに「楽習保育」を取り入れた年間指導計画を作成している。
保育目標として「こころ…認め合う子ども、チャレンジする子ども」「あたま…興味を表現する子ども、発見を大切に子ども」「からだ…楽しくよく食べる子ども、からだ中であそぶ子ども」を掲げ、思いやりや生きる力などを大切に保育が展開されている。

子どもが自ら遊びや玩具を選択してのびのびと自由に遊べる時間と空間を設定している

子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をするために、子ども自ら玩具や遊びを選べるように、コーナーの設置や玩具の設定を考慮している。構成遊びは、自由に発想し遊びを継続させていけるようにしている。素材を用意し子どもが創造力を働かせ、工夫しながら遊びを発展させていけるようにしている。子どもたちが自由に遊べる時間を、毎日の保育の中で設定しており、園庭では子どもが遊びたい玩具を用意し、子どもが自分で考えて遊ぶ遊びを大切にして、のびのびと遊べる時間と空間を保障している。

季節が感じ取れるように散歩に出かけ、収集物を活用した子どもの製作品を展示している

季節の移り変わりを感じ取れるように、散歩や園庭遊びの機会を設けている。
散歩に出かけた時は、必ずクラスノートにその日の様子を記載して保護者へ伝えている。
子ども達の作品からも季節を感じることができるように、保育室内や廊下などの装飾やドングリや落ち葉を活用した製作品の展示などもしている。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目4の講評

運動会や成長発表会など子どもたちの成長を感じられるような行事を実施している
 みんなで協力しやり遂げることの喜びを味わえるような行事として、運動会や夕涼み会のお店屋さんごっこなど、生活発表会などを行なっている。
 運動会では、組み体操やリレーなどの取り組みを通して、やり遂げる喜びや、協力する大切さ、責任感などを伝えている。また、夕涼み会で行なわれたお店屋さんごっこでは、異年齢による交流のなかで年下の子の面倒を見る姿が見られ、思いやりやいたわりの気持ちを育んでいる。生活発表会は1年間の子どもの成長を保護者とともに感じられる機会となっている。
 行事は日常の保育の中で準備する過程も大切にしながら、取り組めるようにしている
 子どもが興味を持ち、自ら進んで楽しく取り組めるように、日常の保育の中で準備を進めながら、興味や関心を持ち期待感をもって行事に取り組めるようにしている。お店屋さんごっこや生活発表会では、お店や発表内容は子どもたちと相談しながら、子どもが興味を持っている題材を取り入れている。食育活動として、ピザトーストやサツマイモごはん、手巻き寿司、クッキーなどの調理保育を行っており、食器や食具の使い方を学びながら、楽しく食に興味を持てるような取り組みもしている。
 ボランティアとの交流や区のイベントに参加し職員以外の人と交流する機会を持っている
 年度当初の保護者会で園行事について説明し、年間の行事予定を書面で配布している。行事の前には、日程とともに子どもたちの取り組んでいる様子なども園だよりやクラス便りで知らせしている。保護者も一緒に保育園の仲間として行事に取り組んでもらえる環境が作られている。
 子どもたちが職員以外の人と交流する機会として、外国人ボランティアによるハロウィンパーティーや紙きりアートの方に定期的に来園してもらっている。また、区の打ち水大作戦等に参加し地域社会と交流を図っている。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当

評価項目5の講評

異年齢で過ごす中でも年齢や発達を考慮し環境を整え玩具を用意している
 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるように、夕方は0～2歳児と3～5歳児で分かれて過ごしている(18時10分まで)。生活リズムを考慮し一日の生活や配慮を職員間で共有して継続した援助が行なえるようにしている。異年齢で遊べる玩具を準備しており、発達に合った玩具を複数揃え、0～2歳児が3～5歳児の遊びに好奇心を持ち、自分でもやって見ようと思えるような環境を設定している。家庭(兄弟や一人っ子など)では体験できない友だち関係を体験する機会となっている。

子どもの様子は、申し送りノートなどや口頭で引き継ぎ、保護者へ伝えている
 子どもの様子を確実に職員間で引き継ぐために、毎日の昼礼で伝達事項を報告し全職員で共有している。保育中の子どもの様子は、申し送りノートなどに記入するとともに、担任から当番保育士に口頭でも引き継いでいる。お迎え時に子どもの様子を保護者に伝えるために、遅番への引き継ぎは各クラスの保育士が申し送りノートで引き継ぎ、漏れのないように引き継いでいる。0～2歳児クラスの保護者に対しては、その日の子どもの様子を連絡帳に記入して伝えている。重要事項については、できる限り担任が保護者へ直接伝えている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
◎あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○非該当

評価項目6の講評

給食は行事での会食や園外でのお弁当など雰囲気を変えて楽しむ機会を設けている
 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りとして、年齢や発達に合わせた机やいすを設置し、おしゃべりしながら楽しく食べられるように座席を工夫している(幼児は一定の時間を決めている)。0～2歳児は食事と遊びのスペースを分け、落ちついて食べられるようにしている。
 行事での会食やボランティアとの会食(隔月)、公園にお弁当(家庭より持参)を持って食べるなどの機会も設けている。テーブルに季節の花を飾るなどの雰囲気を変えての給食も楽しんでいる。

給食は区の献立で提供しながらも行事食では盛り付けを工夫して楽しめるようにしている
 献立は区の献立で、栄養バランスに配慮しながら季節の食材をとり入れた給食を提供している。行事食では季節感のある七夕メニューや旬の食材を使い、季節の訪れを給食から感じるようにしている。型抜き野菜やいちごのサンタなど盛り付けを工夫して提供しており、子どもが目で見ても楽しめるようにしている。
 食物アレルギーのある子どもについては、保護者と栄養士が定期的に面談を行ない、アレルギーの対応を行なっている調理、担任、園長がチェックして提供している。誤食の無いようにテーブルやトレーを分けて細心の注意をしている。

「食育計画」にもとづき、栽培や調理保育を通して食に興味を持てるようにしている
 食についての関心を深めるために、「食育計画」(楽しく食べる子ども)にもとづき、正しい食事マナーを身につけ、野菜の栽培や調理保育などを行なっている。野菜の栽培では収穫したものを触れ、切って中を見るなどした。乳児は皮むきなどをして食材に親しみをもった。栄養士が食材などについて話をする機会も設けており、七草粥では実際に七草を見せるなどしている。調理保育では安全で衛生的な使用方法を身につけて、食べる楽しみや意欲を育んでいる。
 給食だよりの発行でレシピを紹介したり保護者にも興味を持てるような工夫を行なっている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○非該当
◎あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>紙芝居やパネルシアターなどを活用し、子どもにわかりやすく健康について伝えている</p> <p>けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えるために、看護師が紙芝居やパネルシアター、エプロンシアター、菌の模型などを活用して子どもにわかりやすく伝えている。手洗いについては年度当初にパネルシアター形式で手洗いの大切さを伝え、感染症が流行する時期は、手の洗い残しがわかるように伝えている。また、生活習慣の大切さは、紙芝居形式で伝えている。けがを防止するために、入ってはいけない場所にはロープや柵を設けるなど、子どもが見てもわかるようにしている。</p> <p>子どもの健康管理のため嘱託医による健康診断や看護師による適切な対応を行なっている</p> <p>嘱託医による年2回の健康診断(0歳児は月2回、1・2歳児は毎月)や歯科健診などを行なっているほか、目の見え方のチェックをしている。医療的なケアが必要な子どもに対しては、専門機関等との連携にもとづく支援をしている。また、緊急時に受診が必要になった際は、専門機関との対応が促せる体制が整っている。看護師がいるため、感染症の発生状況を調査・集計することができる。</p> <p>与薬は基本的に行っていないが、慢性疾患や熱性痙攣などで与薬の必要な子どもへの対応は、医師の指示書や診断書にもとづいて行なっている。</p> <p>子どもの病気などの情報提供は、掲示や保健だよりなどを活用している</p> <p>保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)などに関する情報を提供し、予防に努めるために、入園時にSIDSについて説明し、園ではうつぶせ寝にしていることを伝えている。感染症流行時には玄関先やクラスに掲示と保健だよりを通じて、疾病状況を踏まえた注意事項を掲載して注意喚起するとともに、予防に努めている。</p> <p>保育園で感染した子どもがいる場合は玄関に掲示して迅速に情報を発信している。区内、近隣で流行している感染症情報も保護者へ同時に発信している。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
◎あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
◎あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

保護者の考えや提案に耳を傾け、悩みを相談できる人的環境を構築している

保護者に子育てや就労など個々の事情に配慮するために、入園面接時に保護者の状況を確認している。保護者の事情などについては、その都度柔軟に対応している。
保護者と職員の信頼関係が深まるように、保護者会や個別面談、送迎時のコミュニケーションや保育参観で保育士体験をしてもらう機会を設けている。保護者の考えや提案を聴く機会としては、意見箱の設置や行事ごとのアンケートから意見などを把握するようにしている。率直に伝えてくれる保護者を大切に想い、保護者の子育てに共感し、悩みを相談できる人的環境を構築している。

保護者会や行事など保護者同士が交流し、子育ての仲間意識が持てるようにしている

保護者同士が交流できる機会として、保護者会や各行事への参加などの場を設けている。保護者会では保護者同士自由に話し合う時間を設け、同じ年齢の子どもを持つ同士が悩みを打ち明けたり、アドバイスをし合ったりし、子育ての仲間意識が持てるようにしている。保護者との共通認識を得る取り組みとしては、全体懇談会で子どもの年齢ごとの発達の特徴について話をしている。その後のクラス会ではクラスの現状について話をしている。

9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点()・非該当3

評価	標準項目	
○あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	●非該当
○あり ○なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	●非該当
○あり ○なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	●非該当

評価項目9の講評

保育事業の対象年齢や定員について見直しが図られる中、保育の安定を図っている

待機児童解消に向けた区の取組みで定員の見直しが図られる中、安定した保育を実施している。また、子育て支援事業については、区立保育園で実施している「保育園であそぼう」等の事業は行なっていないが、育児相談を通じ地域のニーズに応えている。

外国人や地域のボランティアの受け入れと見学者への丁寧な対応をしている

外国人や地域のボランティアの受け入れ、ハロウィンやお話し会などを楽しんでいる。見学者や来園者が訪れた時には、園長が一人ひとり丁寧に対応し入園手続きや育児相談を受けている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル①	業務をレベルアップさせ、職員のやる気向上を後押しする、組織全体のシステムがある	
内容①	職員の力を引き出す法人の取り組みとして、グループ各園の保育士が参加して、日頃実施している保育の実践を提案する機会が設けられている。それに対して他園の保育士が投票し、選ばれた取り組みが表彰される仕組みとなっている。また、法人の公開保育システムとして、評価(評点)の高い取り組みが法人の冊子に取り上げられ、他園のモデル事例として紹介されるシステムがある。こうした、日頃の保育の良い点を広める活動が職員のやる気を向上させている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	法人で力を入れている「楽習保育」への園独自の取り組みが、進められている	
内容②	特徴ある保育の取り組みとして、園では法人の主要保育プログラムである「楽習保育」が行なわれている。「楽習保育」は、「子どもの興味分野や発達段階に基づく活動を友だちや先生と一緒に体験や経験しながら、一人ひとりの興味や好奇心を伸ばしていけるようにする保育」と定義されており、幼児クラスに設置される遊具や教材を活用することで、子どもの個性と能力を高めていくことをねらいに個性ある保育が実践されている。本園でも再利用の牛乳パックを使った目を見張るような大作をつくっており、子どもの創造的な遊びの充実に貢献している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	子どもが、想像力や創造力を働かせて工夫し、豊かに遊びを展開していけるような環境を整えている
	内容	法人として取り組んでいる「楽習保育」(“あそび・生活”から“まなび”へをテーマに、乳幼児期から、子どもたちが楽しみながら学んでいる)の一つとして、素材を用意し子どもが想像力や創造力を働かせて工夫し、豊かに遊びを展開していけるような環境を整えている。 3～5歳児の廊下の一角には牛乳パックなどの素材を用意して子どもが自由に製作が出来るようにしている。3歳児は秘密基地を、3～5歳児共同で大きな恐竜が製作されており、遊びの中に自然に取り入れながら、楽しく取り組めるように環境が整えられている。
2	タイトル	園での子どもの様子を写真やイラストを活用して、わかりやすく保護者へ伝える工夫が見られる
	内容	園で行なわれている行事やクッキング保育、ボランティアによるハロウィンなど様々な子どもの活動を写真に撮り、廊下に掲示して子どもが生き生きと活動している様子を保護者へ伝えている。園だよりや給食だより、保健だよりなどではイラスト写真を貼付して、読みやすい内容で作成している。園だよりではクラスの様子、給食だよりや保健だよりではレシピや生活習慣、感染症情報などの情報を掲載している。また、クラスノートはイラストなどを交えてイメージが伝わるようにしているなど子どもの様子をわかりやすく保護者へ伝える工夫が随所に見られる。
3	タイトル	法人のバックアップによる優れた職員育成のシステムが展開されており、今後の若い職員の育ちが期待できる
	内容	職員育成の面では、法人作成の「個人能力向上シート」に職員自身の振り返りや評価を記入し、園長や主任との面談の際には事前に独自のシートも活用して、上長からの育成コメントが発信される秀逸な育成システムが展開されている。 育成のために個人別の年間研修計画シートを使って、職員としての成長目標や研修参加の目的、期ごとの反省なども個別に作成されており、研修履歴もデータベース化されている。それらをもとに園長や主任が研修計画に対するアドバイスを明記して、優れた職員個人別育成計画になっている。
No. 今後の課題と思われる点		
1	タイトル	子どもの個別指導計画の一層わかりやすい説明に期待したい
	内容	子どもの個別指導計画は全園児に作成されており、年齢ごとのねらいについて保護者へ伝える良い仕組みができています。子どもの発達や成長を共に確認しながら子育ての視点を保護者と共有するために、「一人ひとりの保育のねらい」を保護者の状況に応じて書面なども活用して、具体的にわかりやすく伝えることの検討に期待したい。
2	タイトル	「暫定保育室」という環境にあり、さまざまな制約があるとは思いますが、保護者の満足度の向上の面では、一層の取り組み推進に期待したい
	内容	職員の育成の面で研修への参加に特に力を入れている本園であるが、行政の「暫定保育室」という位置づけで園舎の移転による環境の変化や職員の入れ替えなどがあり、本アンケートから保護者の評価全般に課題が見られた。子どもや保護者の尊重、要望や意見などへの対応の面では、保護者の満足度をより一層高めるために、今後の研修参加やOJTによる研究実践などに期待したい。
3	タイトル	廊下などの掲示物については、環境デザインの得意な職員の力を引き出すことで、さらなるセンスアップが期待できる
	内容	季節の装飾は、保育室や廊下、階段に掲示するほか、保育目標などは玄関に図入りでわかりやすく掲示されている。子ども達の活動の様子を保護者へわかりやすく伝えるために、行事ごとに作成する写真を添えた壁新聞の掲示やクラスだよりの発行などがなされている。それぞれ子どもや保育園の様子がわかる掲示物となっているが、ホールや保育室などの環境を、さらに活かす工夫に期待したい。また、環境デザインの得意な職員の力を引き出して、廊下の展示の仕方や見せ方などを工夫することで、さらなるセンスアップに期待ができる。